

November Newsletter

College for International Co-operation and Development



Dear friends and future volunteers

今回のニュースレターは、CICD の日本人参加者によるアフリカ活動の記事と、CICD の学習活動についてとりあげています。

- 1) アフリカでの活動を終えて ～2007年11月チーム岡部有美子さんによる記事～
- 2) マラウイの現地活動報告 ～2008年5月チーム外菌雅子さんによる現地報告～
- 3) ガイアプログラムの学習活動
- 4) 国際関係についての簡単なクイズ
- 5) DMM 学習について (学生のコメントもまじえながら)

アフリカでの活動を終えて

岡部有美子 (おかべゆみこ) さんは、2007年11月チームとして、今年の5月にアフリカ・マラウイへ派遣され、先月の11月にFarmers Club (HOPE) プロジェクトで活動を終えたばかりです。

そんな彼女のアフリカでの活動はもちろんのこと、CICDでの事前研修も含めてプログラム全体について語っていただきました。

1. 派遣国と活動したプロジェクトについての概要を教えてください。

派遣国：マラウイ/Farmers Club (HOPE)

派遣先予定であったHOPE プロジェクトがFarmers Club プロジェクトの傘下に入ったことにより、2つのプロジェクトで活動することになりました。

基本的にFarmers Club は、現地雇用スタッフとフィールドに出かけ、コミュニティでDI [Development Instruct (開発インストラクター) の略称。プログラムに参加したボランティア、学生のこと] としてやれること、例えば衛生・健康に関して (ほんの一例) のプレゼンテーションなど農家の人々に対して知識向上のための活動や、スタッフ・プロジェクトへのヘルプなどが挙げられます。

実践的な農業方法は、「40 GAIA Green World Action Book」 (Humana People to People と協働して活動続ける団体GAIA が作成した、開発途上国で実用的、有効的な技術やその方法を説明した本) で学べますので、プロジェクトに入ってから、スタッフがその中から行う様々な活動のサポート、組織 (プロジェクト・農家・スタッフ等) に関してアイディアの提案・助言などができると思います。

農家の人々以外にも、Self Help Group といった女性た



ちのコミュニティボランティア、Preschool（幼稚園）なども活動対象となりますので、農業以外の仕事も現場にはたくさんあります。

Farmers Club は、いわゆるCommunity Development のプロジェクトで、単純に農業だけに関するプロジェクトではないですし、農民といっても基本的にコミュニティ内のほとんどがそうなので、アイデア次第でとても幅広く活動できるプロジェクトだと思います。

また私の地域では、まだHOPE の活動も多少残っていましたが、Youth Club と呼ばれるHIV/AIDS予防活動を推進する青年グループ、またHIV-Positive の人々が自分たちの生活向上のため組織するSupport Group などが活動していました。

2. プロジェクトでは具体的にどのような活動を行いましたか？

HOPE では主にYouth Club と一緒に活動していました。週2 回行われるミーティングに顔を出し、毎週そのうちの一回で、他のDI が作ってくれた英語曲を教え練習をしたり、彼らオリジナルのHIV/AIDS に関する歌などをレコーディングしていたりしました。あるときは、彼らが求めているサポートのヒアリング等を行い、プロジェクトとの架け橋をしていたりしました。例えば、以前のDI がしていたことを再度活動開始するためにオフィスへ行ったり、半年に一度くらいずつあるCeremonyにおいて、その村の長老や孤児などをサポートするために一緒に活動していたりしました。



Support Group の方がたとは、主に週1 のミーティングで顔を合わせ、彼女たちのプランを一緒になって考えました。例えばIncome Generation Activity（収入創出活動）と呼ばれる資金運営において、どういったもの、方法なら一番効率よくできるか、また自分たちで持続可能になるかなどをスタッフと一緒に考案し、助言していました。また、Herbal Garden をスタッフと一緒にそれぞれのグループにおいて設立し、そのハーブや周辺にある植物などを使って、自宅で簡単に作れる薬などの作り方を教え、また健康維持のための知識やアイデアを提案していました。

Farmers Club のほうでは、主にCBO と呼ばれるコミュニティ、そしてSupport Group も混ざり一緒にHerbal Garden やTree Nursery を作っていました。また家に呼び、スタッフと一緒に1 日トレーニングを開催して、農業や健康、また薬の作り方などを教えていました。Income Generation Activity ですでにHoney Group を組織し、Honey ができるのを一緒に待ち、できあがり次第どういった方向性で売っていくかなどを検討していました。が、蜂が自分たちで蜜を食べてしまったことにより、さらに3 ヶ月間以上待たなければならず、次のDI に託して任務を終えました。

またあるときでは、自分以外のDI のサポートを行ったりもしていました。例えばPrimary School（小学校）での英語や音楽の授業で、パフォーマンスをし、1 日先生を交替することもありました。そしてあるときは、Vocational School（職業訓練学校）で1 週間トレーニング（村人向け）を開催したDI がおり、私と同じ内容の活動をしていたこともあったため、一緒に参加し、サポートできる場所はしていました。



3. アフリカでの活動（プロジェクト・生活面の両方）は、ゆみこさんにとってどのようなものでしたか？大変だったこと、これには「怒った」ということ、逆に嬉しかったことやいい経験になった部分など。。。

派遣先予定であったHOPE プロジェクトが、Farmers Club プロジェクトの傘下に入ったことに、個人的には多大なショックを受けていました。今まで準備してきたことができないといった憤りや、不安などもあり、やはりプロジェクトに到着してからもなかなか状況を受け入れられずにいました。

そこで、やはりプロジェクト・リーダーとぶつかることもあり、理不尽だと思ううちに、元々いたHOPE のDI たちと一緒に、Farmers Club の活動を半ば無視する形でHOPE を続けていました。

そんな中彼女たちの任期も終え、最終的に1 人でHOPE をする形になったとき、やはりプロジェクトと一緒に働いていないことなどもあり、モチベーションは下がるし、マラリアにかかったり違う病気で入院したり、と個人的にはとても辛い状況に陥ってしまいました。

身体が心配だったため、本当に辞めようかどうかとうとう迷ったときに、休暇をとってリフレッシュし、それから心を入れ替えようと思い、はじめからプロジェクトと向き合おうと思いました。そこで、行く必要のなかったオフィスにも顔を出し、スタッフと一緒にフィールドに出かけ、一緒にプランをし、相談し、ヘルプをし、コミュニケーションをとるようになってからは、自分の活動も生活自体そのものまでもが変化するようになりました。

最後の1 ヶ月に新しいDI が来て、同じような状況でFarmers Club に派遣された彼女に、私はこういいました。「私は一番初めに大きなミスをしたと思う。他のDI の意見はあくまで参考にすべきで、何が1 番いいのかは自分の目で見て確かめ、それから行動するべきだった」と。



6ヶ月を貫きとおし、最後まで諦めたまま終わらなかったことは本当に良かったと思います。私の態度が変わったからといって、意見の食い違いやコミュニケーションがうまくいかないことで、プロジェクト・リーダーともめることがなくなったわけではありません。しかし、それでも、他のスタッフが私のために手伝ってくれたり、支えてくれたこともあり、必ずしもそれが「いけない」というわけではないと思います。

また、セミナー後、参加者のSupport Group にそれぞれFeedback をしてもらいました。その内容は様々でしたが、そのうちの1人の方が、「今までずっと足の痛みに悩んでいたけれど、今夜は今日作った薬を塗ったおかげでぐっすり眠れそう」とコメントして下さいました。これには本当に嬉しくて、頑張って準備に奔走した甲斐があったなと思いました。

6ヶ月は短い。だから何もできないだろうと思っていましたが、少しでも喜んでくれている顔を見れたことが何よりでした。

淡々とした6ヶ月ではなく、悩み、苦しみ、後悔していましたが、周りの人々に支えられ、最後何よりも自分で色々なことに気づけたことがとてもいい経験になりました。そして、本当にまた戻りたいと思い、終えられたことは、これからの私の原動力になると思います。



4. アフリカでの活動を終えて、改めてCICDでの生活を振り返るとどのようなことが言えますか？ CICD はいわゆる大学院のような専門機関ではなく、ボランティアを養成するトレーニング学校ですが、CICDでの生活はアフリカではどのように活かすことができましたでしょうか？

1番言えるのはやはり、コミュニケーションの練習の場になったことだと思います。

本当に世界の様々な人々との共同生活というのは、一言で表せるほど簡単なものではありません。それはアフリカに行っても同じことでした。

文化・考え・価値観が違えば、一緒に生活していくということは早々簡単ではありませんし、一緒に何かをしようと思っても、時間がかかることです。しかし、様々な苦労もありながら、後で振り返れば、あの6ヶ月で色々なことに対する柔軟性がついたと感じています。知識習得などの学習は、自分でできることだと思います。しかし、コミュニケーション、しかも1度に多国籍の人々となると、できる場所は限られてくるのではないかと思います。



アフリカでの生活はもちろん夢のように感じますが、行ってみれば思う以上に困難に遭遇する毎日となります。それに対して、どれだけ適応していけるかが鍵だと思います。

例えば私はCICDでキッチンの責任者をしていました。そのときに毎日のキッチンの担当を決めるという一見簡単そうな仕事でしたが、言うのとやるのは大違い。さりげなく変えてしまう人、勝手にさぼる人、文句だけ言う人・・・様々な人や状況に対応するのは涙が出そうほど辛い思いをしたこともありました。食は毎日のことですし、何十人もの人々が一同に会する食事時間のご飯が出ないというのは大問題です。そういったことをマネジメントしていき、人と関わってうまく生活していくというのは、やはり実践しかないと思います。

そういった意味で、プロジェクトに行く前にCICD でこういった経験ができたことは、後で思えばよかったかなと思います。日本人的に言うと、アフリカは何もかもが遅い、不便、仕事がこれでいいのかと思うものです。しかし、CICD でのワンクッションのおかげで、それを文句だけで終わらせることなく、少しでも行動に移せるようになったのではと思います。本当に、文句を言い出せばきりがありませんから・・・それよりも、もっと違うやり方を学べるといいと思います。

5. CICD のプログラムを終えて思うことを、ガイア、DI 生活、アフリカでの活動を振り返りながら自由に書いてください。

まず私が1番驚いたのは、アフリカから戻ったときに意外にもとても楽しめたということでした。CICD といえばもちろん、勉強や街頭での雑誌販売などが中心で、生活を通して人間関係に頭を抱えることもたくさん・・・もう戻りたくないと思うところが正直な気持ちでした。

しかし、いざ帰ってみると、自分がすごした何ヶ月がどれだけ尊いものだったのかと気づかされました。辛い中でも支えあってきたチームを始めとする仲間がいてくれ、思った以上にその時間が大切だったんだと思えたからです。もちろん自分がどう過ごしてきたかで人それぞれだと思いますが、この1年と少し、このプログラムで私が一番得たものは出会った人でした。

チームメンバーにも恵まれ、最後まで色々はあったにしろ、最終的に残ったメンバーとは文句もなく、みんなで助け合うことができ、他のチームでも帰ってきてもいまだ連絡をくれる人、アフリカへ行っても、白人だからという目ではなく、私を1人の人として友達だと思ってくれる人々に出会え・・・そういった経験ができたことに感謝しています。辛かったからこそ、人との結びつきが密になったと思いますし、街頭での雑誌販売を通して出会った人々、アフリカではただの近所の人や商店のおじちゃん、ミニバスドライバーや隣に座った人など、全てが自分を成長させてくれる結果につながったと思います。

6. 最後に、CICD プログラム参加を考えている人や、これからアフリカ/インドへの派遣へ向けて頑張っている後輩の学生に一言お願いします。



どんな理由でもいいと思います。やりたいなら、一歩踏み込んでいく勇気があれば、先はあると思います。

そして、今CICD にいる学生さんに、努力してできる人やそうでない人も色々だと思いますが、常に周りの人と溶け込んでみてください。

私はいつも自分で何かをやり遂げたというよりも、誰かに常に助けられた1年になりました。甘えるのではなく、支えあう。「仲間」を大切に、過ごしてくださいね。そして笑顔でアフリカ/インドへ旅立ってください！

2007年11月チーム
岡部 有美子

マラウイの現地活動報告 (Week1~2)

先月11月にアフリカ・マラウイへと派遣されたばかりの、外菌雅子（ほかぞのまさこ）さんによる、マラウイでの生活やプロジェクトでの活動についてのレポートを皆さんにお伝えいたします。

外菌さんは、2008年5月チームに参加され、現在はマラウイの大都市ブランタイアにあるアマリカ村でTTC (Teachers Training College. 教員養成学校) プロジェクトで活動を続けています。

マラウイのTTCプロジェクトでは、幼稚園運営に携わる仕事ができ、特に日本人の参加者に人気の高いプロジェクトです。

まだ活動してまもない彼女の報告を、1週間目と2週間目にわけてお送りいたします。

是非ともお楽しみ下さい。

到着1週間目の活動報告

みなさんこんにちは。2008年5月チームのマサコです。マラウイのブランタイアにあるアマリカという村のTTC (Teachers Training College) に来て1週間が過ぎました。

雨季に入っているのですが、アマリカは毎日お天気が続いています。また、TTCは山の上にあるので朝夕も涼しく、屋内にいれば汗も出ないほど快適です。2週間前に開校したばかりの新しい学校で、メインの施設以外はまだ工事が続いています。

TTCのスタッフ、生徒たちもみんな明るく優しい人ばかりで楽しく過ごしています。学校のメインの施設には電気や水道もあり生活には不自由はありませんが、DI用のホステルはまだ工事が完了しておらず電気がありませんが、寝るだけの場所なのでロウソク1本あれば十分です。シャワーもソーラーシステムの工事中なので、今は水のみシャワーですが、慣れてしまえば問題ありませんよ。



私の仕事は主に村周辺の幼稚園を視察し、アドバイスを رفتり、改善策を考えたりすることですが、その他にもTTCでの授業を受け持ったり、コミュニティに出向いて英語や衛生問題などに関してコースをすることです。コミュニティや幼稚園の先生たちに対してWorkShopをすることもあります。

今週さっそく、初めてのworkshopを行いました。アマリカ周辺の12校ある幼稚園に招待状を配り、10校、14名の先生が出席しました。

*幼稚園教諭に対するworkshopは毎月1回、無料で行われます。

スケジュールはこちら:

7:30- 7:45	受付、TTC設備の紹介
7:45- 8:30	朝食 (お米のポーリッジ)
8:30- 9:00	TTC講師によるスピーチ、イントロダクション

9:00-10:00	ナチュラルマテリアル 天然素材などを使った教材の紹介
10:00-10:30	ティーブレイク
10:30-11:30	ナチュラルマテリアルの続き、数に関する教材、教授法紹介
11:30-12:00	ファーストエイド（けがや病気の処置法）
12:00-12:30	手洗いに関して
12:30- 1:30	昼食
1:30- 2:00	歌、ダンスの紹介（各幼稚園で紹介し合う）
2:00- 4:00	教授法（導入方法、教材例など）
4:00	まとめ、リフレッシュメント、記念撮影

		
<p>絵本作成の様子</p>	<p>数の教育</p>	<p>授業の様子</p>
<p>紙を配布し、ストーリーを与え教員が自分で絵本を作る。</p>	<p>数を教えるための教材紹介や教授法に関して提案。</p>	<p>授業を真剣に聞き、メモを取る教員たち。</p>
		
<p>ファーストエイド</p>	<p>ナチュラルマテリアル</p>	<p>歌とダンスの様子</p>
<p>骨折した際の対処法を説明しているところ。</p>	<p>枝やビンの蓋で作った楽器</p>	<p>みんなで歌とダンス</p>
		
<p>手洗いに関して</p>	<p>手洗いの教材</p>	<p>記念撮影</p>
<p>手洗いの重要性、手洗い方法、教授法に関して説明。</p>	<p>洗い残しの多い部分に関する図。</p>	<p>最後にみんなで記念撮影。</p>

まだ始まったばかりですが、順調なスタートを切れました。これからも頑張ります！

到着 2 週間目の活動報告

みなさんこんにちは。アメリカより2回目のレポートをお届けいたします。

【暮らしについて】

交通

道を歩くと、すれ違う誰もがMuli bwanji? (元気ですか?)と、挨拶をしてくれます。貧しさはありますが、マラウイの人々は優しく笑顔の絶えない素敵な人たちです。

マラウイの人たちはとにかくよく歩きます。近くの市場や職場まで2時間以上かけて歩く姿をよく見かけます。ミニバンを使ったバスも多く走っていますが、お金がかかるため徒歩で移動する人が多いようです。また、トラックの荷台にはたくさんの人が乗っているのが日常の風景です。シートベルト着用は義務づけられているようですが、荷台に乗るのは問題ないのかなとちょっと不思議です。荷台の上ではみな歌ったりととても楽しそうです。私もマラウイの人たちと一緒にギューギューな状態で荷台に乗るのを楽しんでいます。

		
<p>あいのり 移動の際はあいのりいで。</p>	<p>工事の様子 前回から少しだけ 進んだかな?</p>	<p>夕焼け 夕方6時前には もう真っ暗になります。</p>

【マラウイの幼稚園】

園児は2歳～4歳までの子どもたちで、朝8時に開園し、11時には閉園してしまいます。

5歳より小学校が始まりますが、小学校にあがるまでに数字やアルファベットを理解していることが要求されるため、ドロップアウトを避けるためにも、幼稚園での教育が重要となります。

この時期、小学校が11月半ばから1月頭まで休暇となるため、兄弟を持つ園児達の出席率も下がります。雨季であるこの時期は子どもたちが農作業要員として期待され、また1月から最も家計が苦しくなる時期でもあり、学費の支払いが滞るなど、様々な問題を抱えているのです。

【活動報告】幼稚園視察

視察内容

- * 登録園児数 (合計, 性別)
- * 登園園児数 (性別)
- * 教員数
- * 食糧に関して (トウモロコシ粉, 砂糖, その他があるかどうか)
- * 衛生状態 (石鹸があるか)
- * 学費 (幼稚園へ費用が支払われているか)
- * 菜園に関して (注1)
- * 教授法に関して (前回のワークショップの内容を実践しているかなど)
- * その他の問題

(注1) インカムジェネレーション（収入創出活動）と呼ばれる活動のひとつ。菜園を持ち、野菜を育てることで食糧や、それを販売して収入を得る。

◆Chiyambi チャンビ幼稚園◆

		
<p>大歓迎</p>	<p>教室</p>	<p>教材</p>
<p>アズング！アズング！と迎えられたあと、歓迎の歌を歌ってくれました。（注2）</p>	<p>コミュニティの協会を教室として代用している。</p>	<p>前回のワークショップで紹介したものを実践してくれています。</p>

(注2) アズングとはアジア人も含む白人のこと。

登録園児：49名

登園者数：男11名、女18名

教員数：3名中2名のみ出勤

食糧：トウモロコシ粉、砂糖あり。その他ポーリッジ（おかゆ）あり。

石鹸の有無：あり

学費：－（コミュニティからの補助で成り立っているため無料）

菜園：配布された種を前日植えた

教授法：ワークショップの内容を実践

カードを使って数字を教え、[1]が終わったところ。

絵を描いて家、木、ヤギ、天気などを教えた。

その他：食糧が不足しがち、菜園用の肥料が不足している。

◆Nankamba ナンカンバ幼稚園◆

		
<p>遊具</p>	<p>教室</p>	<p>教材</p>
<p>コミュニティが寄付した手作りのブランコ（3つ）が唯一の遊具。</p>	<p>藁ぶきに土間の教室。園児数を考えるとかなり狭い。</p>	<p>前回のワークショップで紹介したものを実践してくれています。</p>

登録園児：87名（男42名、女45名）

登園者数：男15名、女9名

教員数：3名中1名のみ出勤

食糧：トウモロコシ粉，砂糖あり。

石鹼の有無：なし

学費：週MK40（およそ¥32）だが、支払不可で誰も納入していない。

菜園：未実施（雨が降るのを待っている状態）

教授法：ワークショップの内容を実践

カードを使って数字を教えた。

その他、歌やポエムを教えた。

◆Tiyanjane ティヤンジャネ幼稚園◆

		
教具	教室	教会
A4サイズの黒板が唯一の教具。	野外に竹や藁で囲っただけの教室。	向いにある新しく建てた協会が雨が降ったときの教室となる。

【最後に】



TTC (Teachers Training College, 教員養成学校) で、仕事を開始して、2週間目にしてやっと村周辺の幼稚園の視察を行うことができました！

私の滞在しているアマリカという村から各幼稚園までは自転車で行くのですが、炎天下の中、舗装されていない道を一時間以上かけて登ったり下ったりするのでぐったりしてしまいました。

こんなに遠く大変なら視察はもう無理かな、とネガティブな気持ちになってしまいましたが、幼稚園の子ども達の笑顔を見たらそんな気持ちはどこかに吹き飛んでしまいました。幼稚園に到着するなり大興奮で駆け寄ってくる子どもたち。

マラウィ式のあいさつ（握手）でMuli bwanji? と小さな手を差し出してくれました。

マラウィの人々の笑顔は特別なパワーを持っています。常に子どもたち、コミュニティの人々のために何かしたい！と思っていますが、支えられているのは私の方かもしれないですね。この笑顔は本当に特別で、琴線に触れるほど美しい人々です。

今週から本格的に活動を開始しました。アイデアだけは頭の中に溢れていますが、形にするのは容易ではなさそうです。でも、何事も諦めずチャレンジしていきます！

ガイアプログラム—理論と実行

あなたがガイアプログラムに参加するとき、あなたは世界をより良い方向に変えたい、また、今日の世界において幸運が少ない人々の方へ関心を持つ人々の活動に参加していると言えます。

ガイアプログラムは気候変動について関心を持ち、私たちと私たちの惑星に向けての最大の挑戦を行います。そのため、ガイアプログラムでは、地球温暖化に焦点をあてて学ぶと同時に、より良い環境づくりのために、何らかの行動をチームメイトと一緒に行うことができます。

ガイアプログラムでは何を行うのか？

このプログラムは4~1ヵ月間参加し、理論的な学習と実際的な活動を行うプログラムです。そして、参加者の認識を上げて、気候変動の影響を減らすことを目的とします。ガイアプログラムでは各月ごとに学習課題が用意され、4ヶ月間を通して気候変動や環境問題について学習します。

学習時間は1週間に15時間以上もたれ、毎朝に必ず1時間、指導教員と一緒に学習する時間ももたれています。また、週に1日は学習活動日となり、月に1度には2日間、ガイアプログラム全員がCICDに集合して大幅な学習活動を行います。



理論的な学習—1ヶ月ごとの学習課題（ガイアプログラム4ヶ月参加者を例に）

1. 地球科学とガイア論
2. 気候変動
3. 気候変化の影響を減らすこと
4. 環境について

実際的な行動—古着リサイクル作業と保護活動による環境プロジェクト

1. 衣類のリサイクル
2. 「東部ヨークシャーの30エーカー」—大きな公園と庭を開発すること。

プログラム期間中の多くの焦点は、チーム・ワークです。ガイアプログラムの参加者は、一緒に生活し、学習し作業をする以外にも、料理や掃除も行います。このことは、共通の目標に達するために問題を組織して、解決することの経験を積む良い方法です。ガイアプログラムの参加者はその過程において、自分自身の特性により気づき、自分たちを他にアクセスできるようにします。

1. 衣類のリサイクリング

イギリスでは、毎年約100万トンの織物がゴミとして捨てられています。これは、ウィンダム湖を満たすのに十分な量です。また、15億ガロンの油が、1トンの織物を生産するのに必要となります。イギリスや他の先進国では、まだ使用できる衣類をゴミとして廃棄することは何ら問題のないことですが、その一方で衣類を必要とする国も存在します。

私たちは、衣類と靴をリサイクルすることが、優れたガイアプロジェクトであると思っています。したがって、ガイアプログラムの参加者は、各家ごとにそれらを収集し、管理します。私たちは各家の郵便ポストにチラシを投函するのに多くの時間と努力を使用し、人々に不必要になった衣類と靴を寄付してもらえるように呼びかけます。その2日後、私たちは回収車で同じ場所へと赴き、人々が玄関の外に置いたバック（衣類と靴が詰められたもの）を回収します。

1 度回収された衣類と靴は、キャップ・サックと呼ばれる大きなバッグに詰められます。CICD では回収した衣類と靴を東ヨーロッパに販売し、そこで人々は中古衣類として再利用しています。

この販売の収益は、国際ボランティアプログラムに参加したい方への奨学金として投資され、また、アフリカ/インドへの彼らの旅費を支援するのに使用されます。

2. 東部ヨークシャーの 30 エーカー

CICD は東ヨークシャー地方に位置し、30 エーカーの素晴らしい公園用地でもあります。敷地内には 80 種類以上の異なる木や多くの灌木と茂みがあり、豊富な種類の野生生物（特に鳥）が生息しています。

2 つの壁に囲まれた庭のうちの 1 つは、ワーク・ショップと関係がある大きなグリーン・ハウスです。私たちは、新しい生産を供給するために、ハーブと菜園を開発しているところです。

私たちの庭は、生態系です。植物の多様な組み合わせは、野生生物と生物の多様性のための豊かな生息地を与えます。そして、あなたは昆虫とナメクジをはじめ、敷地内に生息するウサギ、マウス、アナグマや多くの異なる鳥など、実に豊富な種類の生息している生物を見つけることができます。

私たちの目的は、地域を保護し開発することで、これをガイアプログラムの中心的活動とすることです。「30 エーカーでのガーデニング」で、私たちの学生は、年間を通じて様々な作業を行います。

今月、私たちはガーデニングを準備し、冬のための地ならしをしていました。私たちは最後のブラックベリーとりんごを収穫すると同時に、トマト、ジャガイモ、ラディッシュとニンジンの収穫を終えました。

私たちが庭に球根を植え始めたと同時に、にんにくと玉葱が野菜菜園で、そしてニンジンが冷床で植えられました。私たちは全ての秋の落ち葉を集めてそれを堆肥にし、腐葉土に変えることができました。

ウェンディ・ダネット・ダッグ ガイアプログラム指導教員



ガイアプログラム学習活動（11月12日～14日）

月に 1 度、「Residential School（寄宿学校）」と呼ばれている日には、全てのガイアプログラム参加者（CICD、ニューキャッスル、バーミンガム、マンチェスター）が CICD に集まり、2 日間の学習活動を行います。月ごとにそれぞれ特別な学習テーマをもち、11 月のテーマはフェア・トレードや国際問題について取り上げられました。

ガイアプログラムに参加する人々は常に新しく、そのため、私たちは学習活動が始まる前夜にコーヒーとクッキーと一緒にお互いの談話を楽しみます。そのことによって、よりお互いを知ることができるからです。

学習活動 1 日目

学習活動が開始し、まず最初に私たちはウェンディ（CICD ガイアプログラム指導教員）から、グローバル経済とフェア・トレードについてプレゼンテーションを受けました。この後、この日のために集まったガイアプログラムの参加者による、フェア・トレードのバナナ、コーヒーやココアについてのプレゼンテーションが始

まりました。ガイアプログラムの学習活動では、参加者がテーマについてプレゼンテーションを準備しなければならず、まずは参加者が主体となって学ぶことができます。

午後には、「Gross National Happiness（国民総幸福）」についてのプレゼンテーションが行われました。国民総幸福とは、生活の質を測る新しい方法とすることができます。私たちはしばしば、有名な国民総生産について耳にします。しかし、あなたはそれが本当に何でも人々の生活水準をあらわしていると思いますか？あなたが国民総幸福について考えた時、あなたがこれまで普通であると思っていた考えを少し変えるかもしれません。 (www.happyplanetindex.org を参照)

私たちはまた、環境や世界問題についてのいくつかの議論も行いました。これらの議論は、ウェンディがいくつかの声明を例として読み上げることから始まりました。例として読み上げられた声明は、「2050年までには、私たちは塩水を飲んでいる」、「緑の革命は失敗であった」、「食糧援助は空腹を決して助けはしない」というようなものでした。これらの声明について賛成か反対を軸にチームメイトと一緒に議論を行うことは、若干の知識を得て状況を理解するのに役立つと思います。

初日がそのような学習活動で終了し、夕食後には軽食として各国の伝統料理が紹介されました。チェコ共和国とイタリアからはケーキが、ルーマニアからはサラダ、ブラジルの豆を使用した伝統料理が披露されるのと同時に、歌やダンスなども紹介され、初日の最後を楽しく締めくくりました。

学習活動 2 日目

朝食後の出立の準備の後、ガイアプログラムの人々は 11 月チームの学生からミレニアム開発目標についてのプレゼンテーションを受けました。

その後は再びウェンディから「Endo of Poverty（貧困の終わり）」と題されたプレゼンテーションを受け、ガイアプログラムの人々はジェフリー・サックスの 2025 年までに極度の貧困を終えるための彼の考えとキャンペーンについて学ぶことができました。

こうして昼食後にはプログラムが終了し、食後の運動として軽くサッカーが行われ、みんなはそれぞれの場所に戻るために CICD を発ちました。

2008 年 9 月チーム パブロ・セラーノ（アルゼンチン出身）

国立石炭博物館



先月に行われたガイアプログラム参加者「Residential School」では、地球システムと気候変動、再生可能エネルギーについて学習しました。再生可能エネルギーについて知ることは、あなたがいつ気候変動の影響を減らしたいかについて考えるためにとっても重要です。私たちは、約 5 つのエネルギー源、すなわち、太陽エネルギー、風力、地熱、水力と生物量について学びました。

再生可能なエネルギーの使用は、ますます人気になっています。しかし、現在、十分なエネルギーをこの様な方法で利用することができません。

しかし、伝統的な資源やその方法について学ぶことはとても重要です。そのため、私たちや先生と一緒にその伝統的な資源（原子力、油、ガス、石炭）を見に行きました。

私たちが行った場所は、国立石炭博物館です。そこで、私たちは、炭鉱で働く労働者の生活がどのようなものであったのか、そしてまた、産業の周りで成長したコミュニティについて、実際に知る機会を得ました。

まず最初に、私たちは鉱山での仕事について簡単なイントロダクションを受けました。その後、何と私たちは、元炭鉱夫でもあるガイドと一緒に地下へ直接赴き、そこで彼らの労働環境について学びました。

私たちが2つのチームに別れて中に入っていくと、鉱山の下の方になると空気がなく、暗闇であることを実感しました。このツアーは私たちに、鉱業技術や全ての状況を直に教えてくれるものでした。私たちは全ての安全地域と、鉱山の中で空気を保つための技術を見ることができました。中のスペースはとても小さく、仕事は厳しいです。そのため、彼らは多くの病気にかかりました。

私たちがこれら全ての年月と働いていた人々のことを考えた時、これらのことがどれだけ困難なものであったのかを創造することができます。もちろん、挑戦と変化をもたらすには、時間がかかります。しかし、世界にはこのようなエネルギーが必要です。

みなさんも、再生可能エネルギーを向上を目指して高めていきましょう！

2008年11月チーム ミランダ・マリアーナ（ブラジル出身）

※国立石炭博物館の見学をはじめ、ガイアプログラムの生活状況についてもっと詳しいことを知りたい方は、「CICDブログ」もチェックしてみてください。

【<http://volunteermemories.blog94.fc2.com/blog-category-1.html>】

☆クイズ☆ ☆正解はこのニュースレターの最後で☆

- 以下のうち、開発途上国のフェア・トレードの原則を反映しているのはどれですか？
 - 開発途上国で生産されているものは何も買わない。
 - 生産者に適切な報酬を支払い、仲介者はそれより少ない報酬を受け取る。
 - 開発途上国から製品に関する輸入税金をなんとかする。
- 世界中で起こる戦争、民族紛争、拷問や虐待などの結果、発生する難民の数は、以下のうちどれが正しいですか？
 - 500万人
 - 1,200万人
 - 2,000万人
- 過去20年間で減少した世界の森林面積は？
 - 100万ヘクタール
 - 700万ヘクタール
 - 1,200万ヘクタール
- 論争的となっている、英国の海外援助のうち約£334,000,000を使用してマレーシア・タイ国境に築き上げられるダムプロジェクトは以下のうちどれですか？
 - Aubur ダム
 - コロンビア川ダム
 - Pergau ダム



5) 世界の何割の人々が安全な飲料水の供給ができていますか？

- ア) 3分の1
- イ) 5分の1
- ウ) 7分の1

6) 開発途上国の26億人の人々は、基本的な公衆衛生が不足しています。

どれくらいの人々が、十分な住居を持っていませんか？

- ア) 9億1000万人
- イ) 11億人
- ウ) 24億人



7) コーヒー店で使用される1杯のカプチーノ£1.75のうち、コーヒーの栽培者は、いくら報酬を受け取るとおもいますか？

- ア) 20ペンス
- イ) 10ペンス
- ウ) 5ペンス

8) 「あなたが今朝、朝食を済ます前に、あなたは世界の半分に頼りました」と言った人物は誰ですか？

- ア) マーティン・ルーサー・キング
- イ) ウィンストン・チャーチル
- ウ) コフィ・アナン

9) ミレニアム開発目標が発案されたのはいつですか？

- ア) 1948
- イ) 1998
- ウ) 2000

10) 2008年は、ミレニアム開発目標の1つを支持して「国際的な年」と名づけられました。支持された目標は以下のうちのどれですか？

- ア) 公衆衛生
- イ) 貧困との戦い
- ウ) 開発

DMM学習について

なぜDMM学習を？DMM学習とは？

CICDをはじめとするDRHスクールでは、DMM (Determination of modern Methods) 学習という、パソコンのデータベースを使用した独自の学習方法を取り入れています。

日本の教育機関のように、指導教員が毎時間ごとに教鞭をとる形ではなく、学生が主体となって積極的に学習していくのがCICDの方針です。

CICDがこの学習方法を取り入れている理由としては、「学生が自分の教育に対して自分で責任をもつ」という自覚を啓発するためでもあります。



アフリカ/インドであなたが活動するとき、あなたが「教える側」として学生や現地スタッフ、コミュニティの人々を動員し、指導していく立場となります。そこにあなたの指導教員はおらず、「あなた」が主体となって考え、あなた自身で問題解決に取り組まなければなりません。

また、あなたのように高度な知識をもっていない現地の人々に、分かりやすく退屈しないように、上手に工夫をこらしてプレゼンテーションをおこない、必要なことを伝えなければいけません。

したがって、CICD では、学生が事前研修期間中にこのような力を身につけるためにも、指導教員は補佐役にまわり、学生が主体となって学習する形態をとっています。

DMM 学習の内容

国際開発、語学、感染症、プロジェクト・スキルなどの基本的な知識習得をはじめ、チームメイトと行う議論やプレゼンテーション、Partnership 活動（街頭での雑誌販売）、ビルディング・ウィークエンドやデンマークでの研修など、その全てが DMM 学習の課題でもあります。

DMM には約 15,000~18,000 の学習課題が用意されており、各科目はレベル 1-12 にわかれ、基礎知識から応用知識を取得することが可能です。また、各課題によって獲得できるポイントが異なります。

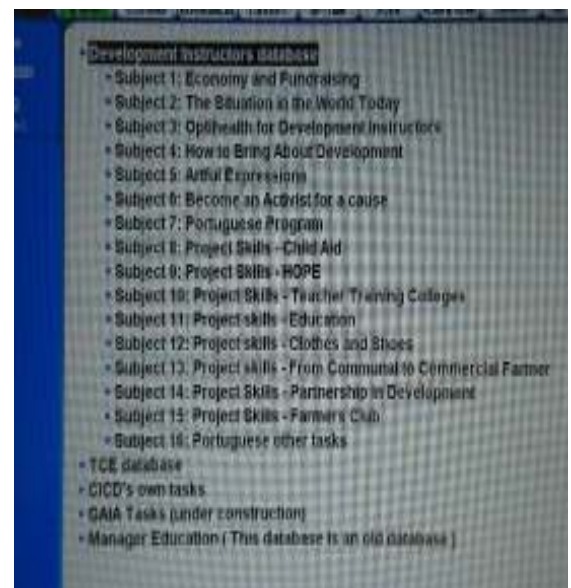
DMM 学習の課題一例：

- ・派遣国の地理歴史、政治経済
- ・世界の貧困問題と子どもの状況
- ・環境問題/地球温暖化問題/開発途上国の環境に優しい開発活動
- ・HIV/AIDS（基礎知識から、HIV 感染者に対するカウンセリングなどの応用知識まで）
- ・英語/ポルトガル語/チュワ語（マラウイの現地語）
- ・派遣プロジェクトの概説/プロジェクト・スキルの習得
- ・感染症/熱帯病
- ・保健衛生/栄養
- ・教授法/プレゼンテーション・スキル/ディスカッション・スキル
- ・Partnership 活動スキル
- ・特別活動（ビルディング・ウィークエンド、広報活動、デンマークでの研修などその他）
- ・コース（指導教員、事後研修期間中の学生、その他によるプレゼンテーションの拝聴）

学生は各個人、DMM の中から、自分が必要だと考える課題を選択します。各課題の全てに、課題に関する説明と問題が用意され、問題に関する学習方法が説明されています。学生は用意された問題を簡潔に論述し、それを先生に提出して可否をもらいます。先生の合格をもらえた時点で、ポイントがもらえます。

学生は CICD での事前研修期間中に、この DMM 学習を通じて合計 850 ポイントを習得する必要があり、850 ポイントは、Study500、Course150、Experiences200 と内訳されます。

Study では、国際開発、語学、感染症やプロジェクトなどをはじめとする、いわゆる知識習得がメインとなっています。



Course では、毎朝に行われる朝会や指導教員・事後研修期間中の学生、その他によるプレゼンテーションの出席がメインとなっています。

Experiences とは、特別活動や学校内外のイベントの立案・実行などを通して、実践的なスキル（リーダー・シップ、マネージメント、コミュニケーション）を習得してもらうのがメインです。

1 ポイントは約 1 時間という計算になります。したがって、CICD の事前研修期間中に何百時間の学習が必要になるということです。なお、期間中に取得できなかった場合、ボランティア活動への派遣は延期となります。

このように、CICD での事前研修の 6 ヶ月間、アフリカ/インドへのボランティア活動に備え、あなたは実に異なる様々な種類の知識と技術を習得する必要があります。

事前研修期間中に行われる全てのことはあなたにとっては新しい経験であり、重要なトレーニングでもあります。

もちろん、この DMM 学習だけがあなたが学ぶべきものではありません。学習活動や特別活動だけではなく、掃除や料理などの日常生活や共同生活を異なる国籍や年齢、バックグラウンドをもつチームメイトと一緒に、どのように「折り合い」をつけながらコミュニケーションをとり、一緒に生活していくのかということも、CICD に居る間のトレーニングの 1 つと言えます。

学生による DMM 学習についてのコメント



私は現在、アフリカとインドの文化と歴史、健康、農業や環境などについて学習しています。

先週は、英国にある貧困についても学び、アフリカとインドの貧困とどのように違うのかについて知る機会がもてたことは、とても興味深いことでした。

DMM 学習は、私がボランティアとしてプロジェクトで活動するための、良い準備を与えてくれます。

ウエムソン ブラジル出身

私の場合は、中国の未来とアフリカでのプロジェクト、ポルトガル語と開発途上国の貧困について学習しているところです。

ドーラ ハンガリー出身



この前までは、アフリカの歴史（特にベルリン会議）とポルトガル語、インドの歴史、健康と HIV/AIDS について学習していました。

フェデリコ イタリア出身

私の場合は、アフリカの貧困問題、英国の青年犯罪、社会問題についての学習を終えたところです。また、私はモザンビークに派遣されるため、ポルトガル語の学習も行っています。

パベル ロシア出身



私はアフリカ文学、ハーブや栄養学、Partnership について学習したところです。

また、私の場合は、先月にアフリカへ派遣された 5 月チームについての記事を書きました。

オーグスティーナ アルゼンチン出身

クイズの答え: 1 イ, 2 ウ, 3 ウ, 4 ウ, 5 ア, 6 イ, 7 ウ, 8 ア, 9 ウ, 10 ア

College for International Co-operation and Development (CICD)
@ Winestead Hall, Patrington
Hull, HU12 0NP
England
Email: cicd05@yahoo.co.jp

Contact Details:
Tel: +44 (0)7813 854 298
+44 (0)1964 631 826
Fax: +44 (0)1964 631 695

Websites:
www.cicdvolunteer-japan.org.uk/
<http://volunteermemories.blog94.fc2.com/>
www.humanapeopletopeople.org